

遅ればせで、ベランダのバラの剪定を終えました。よく見ると、たくさんの芽が膨らんでいました。水仙、ムスカリ、ヒヤシンスの葉もすいぶん伸びています。さあ、またガーデニングの季節到来です。  
日差しがまぶしくなって、晴れた日は黄色い花を探しに散歩に行きたくなります。少しずつ気持ちがざわついて、じっとしていられなくなってくる今日この頃です。

## 新規講座「スウェーデンの四季の手仕事」～ 朝日カルチャーセンター新宿

新年度の講座は、春・夏・秋・冬それぞれ2回ずつ、8回のワークショップで構成されます。スウェーデンひつじの詩舎ならでは、上質な素材と、幅広く奥深い手仕事の技法をご紹介します。お一人お一人の作りたい気持ちを膨らませながら、手の力を信じて、その人らしい作品作りを目指していきたいと考えています。きっと、心から楽しんでいただける内容になるはずですよ。

制作の予定は、以下の通りです。

- 春 ウール地にウール刺繍のピンククッション、  
または麻布にランニングステッチ、刺し子のテーブル小物
- 夏 ヴァドマル（圧縮ウール）で作るソーイングケース
- 秋 オーガンジーと羊毛で、布フェルトのマフラー
- 冬 ひつじの毛皮で（または編みを入れて）リストバンド

春期講座は、4月14日と5月12日（いずれも第2土曜日）の10:30から12:30です。みなさま、どうぞ、お誘いあわせの上、ふるってご参加ください。お申し込み、お問い合わせは朝日カルチャーセンター新宿 TEL: 03-3344-1941 まで。

〔受講料 一般7,560円、会員6,300円、材料代が別途かかります。〕

## まりーさんのアトリエから

梅の花が咲いたかと、2月の最終日曜日、まりーさんといぬたちはお弁当を持って、公園の梅林に出掛けました。けれど、紅梅はちらほら開いているものの、ほとんどが固いつぼみのままで、今年の寒さの厳しかったことを再認識しました。

最近、シベリアの永久凍土で見つかった3万年前の種から、ナデシコ科の白い花が咲いた！というニュースがありましたね。植物の生命の静かな確実さに、不思議がりのまりーさんの血が わきました。

話は変わりますが、ある日のワークショップのこと、3原色染めをみんなですべて、いつもどおりの手順を踏んでいるはずなのに、何だか様子が変でした。鮮やかな色が、いつもなら、毛糸や羊毛に吸い取られて染液が無色透明に近くなるのですが、不思議なことに、ならない！ 次のグループになって、あっ、酢酸を入れるのを忘れていた！と思い出し、単にソコツカカレイ現象かの問題であることに気がきました。植物の種にはソコツカカレイ現象もなく、そのときがくれば、誠実に種の営みを全うする力が備わっています。そこが、すごいなと。

ワークショップでは、まりーさんのこんな失敗にもめげず、みんなの思い思いの手仕事がとてもすてきなのです。どっこい、植物だけではなく、アトリエのひとりひとりの手の持つ不思議な力、ちょっと、見ていただきたいと思ひまして。

いただいたニュージーランドのマヌカ種の芽を出してくれる瞬間を心待ちにしている、このごろのまりーさんです。



## 3月のテーブル「ねっこぽっこ」

ねっこぽっこたちは準備していた色とりどりの服に着替えました。春到来です！  
池上洋子

## ばたぼん通信 可愛がられたお人形

息子たちがお世話になった幼稚園の保育室に、初代の人形を置いていただいてから、もう15年が経ちます。30cm大のウォルドルフ人形とマリアドックを、園の「ウォルドルフ人形の会」のお母さんたちが学期ごとに持ち帰って洗い、なにかと心にかけてくれています。ウォルドルフ人形はとても丈夫で、髪の毛の毛糸以外、ほとんど壊れたことがありません。マリアドックは、素材も羊毛の詰め方もずっとやわらかいので、度重なるお洗濯で中に詰めた羊毛がフェルト化してしまい、ジャージが破れてしまうものが出てきました。

「この子、どうしましょう」と傷んでしまった人形について相談される度に、手をかけて直して使えるものは使っていきたいと思い、けれども、不完全な形のもが子どもたちの傍らにあるのは好ましくないことだとも思い、私自身いつも迷うところでした。

この学年の初めに、とうとうおでのジャージが破れて、傷ができてしまったお人形を、さすがに放置できず、お預かりすることにして家に持ち帰りました。さて、この子をどうしたものか。いろいろな方に相談しましたが、「上からジャージだけかぶせる、ほどいて中の羊毛だけを使う」など、いただいたアドバイスは、なぜか、なかなか実行する気になれませんでした。

ある日、同じウォルドルフ人形の伝え手の笹岡かおりさんが、別の用事で家へ来ました。私のアトリエに置いてあったこのお人形を見るなり、彼女は息をのみ、「ああ、この子、どうしたの?」と聞いてくれましたので、私は事情を話しました。「なんだか、胸がいっぱいになるわね。この子はもう十分働いて、役に立ってきたんじゃないの?このままそっとしておいてあげなよ。『可愛がられたお人形』って、額に入れて飾っておいてあげてよ」と言ってくれました。その言葉を聞いた途端、すとんと胸に落ちました。その通りだわ、と思いました。どうしよう、どうしよう迷っていたのは、実は子どもたちのいろいろな思いを受け止めてきたこの人形がいなくなってしまうのが嫌だったのだと、気づきました。私はすっかり気持ちが楽になり、幼稚園の会のお母さんたちには「新しい人形を作りましょう」と呼びかけ、この傷ついた人形はアトリエの片隅に、そっと寝かせておくことにしました。

今も、幼稚園で人形作りをしていた方たちの何人かが、手仕事をしにアトリエを訪ねてくださいます。その方たちが、この人形に目をとめてくれたので、来歴を話すと「まあ、それじゃあ、この子は、うちの子が通っていた頃にも、園にいてくれたのね。うちの子もお世話になったのでしょね」と、それはそれは暖かく接してくれるので、その度に私は胸がいっぱいになってしまいます。この人形が優しくされてうれしいというだけではなく、そこに、母たちの、今は大きくなったわが子に対する、言葉にならないいろいろな思いを感じてしまうからです。

こんな話をしてくれた人もいます。思春期の子どもはタイヘン。ある時、15歳のKちゃんがかんしゃくを起こし、手に触れるものを手当たり次第、投げ散らかしたことがあったそうです。その時に、たまたまお母さんが作ってくれた、そして自分が小さい頃とても可愛がっていたマリアドックを手にしてしまい、Kちゃんは一瞬ひるんで、とても投げるのがいやそうに、仕方なくほいと足元に落とすとのこと。「それを見て、とっても安心したのよね」とその方は言っていました。

以来、この人形の近くを通るたびに、なぜかそのまま通り過ぎることができず、つい抱き上げてしみじみと眺めてしまいます。思いを受け止め、思いをつなぐ、お人形の役割の大切さを考え、そのことに関わられたことの幸せを思います。



Takuya. S

「スペース ペレのあたらしいふく」3月の開店日  
1日(木)～15日(木) (日・祝を除く) 10:00～16:30

ホームページ <http://www.s-hitsuji.co.jp/>

編集担当: 佐藤治子

♥ スウェーデンひつじの詩舎 ♥  
スペース ペレのあたらしいふく  
〒244-0001 横浜市戸塚区鳥が丘 15-2  
TEL&FAX 045-881-6900,6665  
佐々木のアトリエ TEL&FAX 045-811-6708  
相談窓口(金) 寺田裕子 045-881-7035